

フレンズのつどいPart.12 **TENGO 情熱のライブ** **迫力ある演奏が聴衆を魅了!**

8月1日(日)文化の家・森のホールで「フレンズのつどい Part12」が行われました。

今回は、巧みな演奏テクニックと情熱的なメロディのジブシーユニットTENGOのライブでした。

ジブシーヴァイオリンの天野紀子さん(56歳)、アコーディオンの後藤ミホコさん(46歳)の「おばちゃんユニット(自称)TENGO」の、力強く情熱的な演奏に1曲目から惹きこまれました。

ヴァイオリンの天野さんは、身体全体を使ったエネルギッシュな演奏でありながら、音を完璧にとらえ、アコーディオンの後藤さんは、重さ12.5キロあるという愛器を立ったまま演奏する、その力強さが聴衆を圧倒します。

「チャールダーシュ」「チゴイネルワイゼン」「ハンガリー舞曲」など、耳に親しまれた曲。「ロシアンクラシック」などのメドレー曲と、さまざまなジャンルの曲をTENGO風アレンジで次々に演奏。

天野さんの「ジブシーヴァイオリンとは」の説



明では、「キラキラ星」を題材に、クラシック風と、ジブシー風に弾き比べてわかりやすく説明し、「ジブシー音楽の、心から湧き出るものを本能で出している部分に惹かれる」と熱く語られました。

また、ユニット名「TENGO」は、天野さんの「天」と後藤さんの「後」からとったというお話に場内は爆笑。「やりたいこと、挑戦したいことがたくさんあって、まだまだ頑張る」「自分の気持ちを強く出せるように、理想に向かっていきたい」とのお二人の言葉に、客席から共感と応援の拍手が沸き、あっという間の1時間半でした。

終演後のCD売り場と、サイン会は長蛇の列ができ、100枚用意されたCDもほぼ完売です。

熱演のあとなのに、疲れも見せずサインと握手、観客との会話を楽しむお二人の姿に感動しました。

また、観客がTENGOのお二人にかける言葉はみな、満足感があふれるものでした。



感動しました

TENGO情熱のライブ 会場で聴きました

福井県から
来ました

会場がTENGOの姿を身近に感じられる大きさと、すごく良かった。元気のパワーをもらいました。新聞の折り込みチラシを見てすぐ申し込みました。以前からTENGOのライブを聴きたいと願っていたのでほんとうに良かった。

インターネットを見て、長久手でTENGOのコンサートがあることを知り、ファンなので来ました。やっぱりライブは良いですね。

女性の観客が多くてびっくりしました。TENGOの彼女らのパワーは男性から見ても素晴らしいと思います。サインと握手をしてもらってから、また2時間かけて帰ります。



フレンズ スタッフ の活躍

フレンズ会員の「の演奏が聴きたいなあ...」といった希望をもとに、旬(しゅん)のアーティストを『文化の家』に招きたいと奔走する「フレンズスタッフ」の活動を紹介します。



「フレンズのつどい」に向けて実行委員会で企画・運営などについて議論を進めます

「フレンズのつどい実行委員」を中心に約1年前から準備が始まります。出演者の選考から出演料の折衝、スケジュール調整、開催日決定、チラシ作り、チケット販売、当日運営にいたるまで、すべてを「フレンズスタッフ」で担います。



楽屋前でのミーティング
「おはようございます。今日一日事故のないようお願いします」



チラシの折り込みも大切な準備です

TENGO情熱のライブ コンサート会場で

フレンズスタッフ 当日の活動をルポ - その1



舞台裏のスペースでは、交流会の準備が着々と...



「フレンズ」紹介のパネルづくり
新しい仲間を誘うために念入りに

フレンズスタッフ 当日の活動をルポ - その2



かげアナ（場内放送）のリハーサル
開演の前に放送内容の確認、リハーサルを念入りに



裏方の仕事は続きます
開演前・開演後とも、モニターを通して会場の進行状況を確認しながら、裏方の仕事は地道に進められます



いよいよ開場

「お待たせしました。自由席の方から先にご入場ください」



客席のご案内

「お客様の席は、こちらでございます」

ケータリング（楽屋接待） **クラ** ばなし

「フレンズのつどい」の、自主事業を行っていくうえでは、さまざまな取り組みがありますが、今回はケータリング（楽屋接待）の様子を紹介します。

他のスタッフより早く楽屋入りし、まずお茶の準備をします。出演者、伴奏者、照明さんなど裏方の人たちへ、お茶、水、コーヒーのフルセット（銘柄を指定される出演者もいらっしゃる）を用意してお迎えます。美味しくいれるのが腕の見せどころ！

『出演者のお迎え』は、いつも緊張する瞬間です。意外に普通の人という感じの人が多く、うっかりすると他の関係者と間違えそうな場面もあります。でもさすがプロ、いざ本番となれば、これが同じ人かと思うほどに変わります。

出演者が楽屋入りの後、早速マネージャーさんと、リハーサルの時間、お茶や弁当の用意、オシボリの出し入れまで打ち合わせ、モニターを見ながら準備します。リハーサル中にアイロンがけをすることもあり、舞台での躍動がアイロンを握る手に伝わってきます。でも観客を素晴らしく魅了する衣装も、糊と汗の臭いでたまらないときも。また面白いトリックを発見することもあります。これは秘密！！

フレンズのつどいPart. 13

クリスマス・パーティー

12月12日(日) 午後2時

長久手町文化の家 舞踊室

入場料 フレンズ会員 1,200円
一般 1,500円

チケット販売期間 10月2日～11月30日



万博開幕まで半年となりました。文化の家でもいろいろな関連事業が行われます。

第1部 ミニコンサート

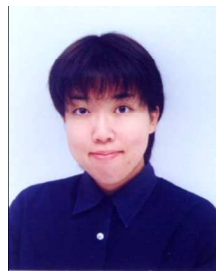
草原の風

モンゴルの歌声とリンベ(竹笛)の響き



モンゴル歌手
包金鐘
(ポウジンゾン)

リンベ奏者
吉林乙拉
(ジリンバヤラ)



ピアノ演奏
市橋あゆみ

第2部 交流ティータイム

軽食をとりながら、参加者と出演者が交流します。ゲームあり、プレゼントありのうれしいティータイムです。

(3面からの続き).....

楽屋の鍵を預かることもあり、著名な出演者と、ここまで身近に関れる喜びと、ちょっぴりマネージャー気分になれるのも裏方の特権です。

開演間近まで、ウォーミングアップする人もいるし、楽屋口に出て私たちと気軽に会話をしてくれる人もいます。舞台は想像以上に体力を要するのか軽食(アメ、チョコ)などを口にして長丁場にそなえる人もいます。

舞台の進行をモニターで見ながら、終演後の交流会の準備をすることもあります。

公演を終え、ときには交流会も楽しんでいただいて、無事お見送りするまでが、ケータリング(楽屋接待)の仕事になります。

愛・地球博半年前カウントダウン

「ながくて万博まつり」

2004年10月11日(祝)

文化の家 森のホールなど

万博ウェルカムイベント

2005年4月以降

長久手町はベルギー王国と一国フレンドシップ事業のペアを組み、文化の家でもこの関連のコンサート、講演会、展示会、物品販売などが計画されています。

詳細は10月以降決定される予定ですが、その内容について、次号以降の機関紙などを通じて順次お知らせします。ご期待ください。

フレンズは、文化の家で行なわれる万博関連事業について、役員会などにはかって、会員のみなさんのご理解を得ながら各種の催しに協力していきたいと考えます。

会員のみなさんの積極的な参加をお願いします。



編集者コラム

記録的な猛暑、感動のオリンピックの夏が去り、ほっと一息。「フレンズのつどい」でのスタッフのパワーは、今年の夏に負けないくらい熱い!初めて参加して、仕事の多さと楽しさを実感。

それが伝わる紙面になれば嬉しい。は